

## キュー・テックが株式会社ゴンゾよりデジタル映像部門(CG・VFX)を事業譲受

当社は、本日開催の取締役会にて、株式会社ゴンゾのデジタル映像部門の事業を、新規に設立する100%子会社、株式会社グラフィニカ(本社:東京都練馬区、代表取締役:伊藤暢啓)にて譲受することを決議致しました。

ゴンゾのデジタル映像部門は、「青の6号」・「戦闘妖精雪風」(バンダイビジュアル)、「LAST EXILE」(ビクターエンタテインメント)、「巖窟王」(メディアファクトリー)等デジタルアニメーションの先駆者として業界内できわめて高い評価を得ております。また、最近では、音楽プロモーションビデオのCG制作・合成を行う等、実写分野でのCG・VFXの実績も積み重ねてきております。

当社は、一連の「機動戦士ガンダム」(サンライズ)、「時をかける少女」(マッドハウス)、「マクロスフロンティア」(サテライト)、「鋼の錬金術師」(ボンズ)等の編集・オーサリングを行い、アニメーション、映画のポストプロダクション事業(編集・エンコーディング・オーサリング)におけるリーディングカンパニーです。今回の事業譲受によってCG・VFXというプリプロダクション事業(上流工程)を事業領域に加え、映像領域における総合的なデジタル・プロダクション・カンパニーへと進化いたします。現在、ハリウッドを中心に進展してきている、映画のデジタル化、フィルムレス、3Dという映画業界の大変革の中で、急速な市場拡大が見込まれるCG・VFX分野への参入は、当社の事業拡大にとって極めて大きな意義を有するものです。

\*\*\*\*\*  
キュー・テックについて:

1981年レーザーディスクの事業化にあたり、パイオニア株式会社が設立したレーザーディスク株式会社の映像編集部門として、映像コンテンツの制作・編集を開始致しました。その後、MBOによって独立、2005年メモリーテックが筆頭株主となり、現在の株主構成は、メモリーテックが81%、バンダイビジュアル株式会社が14.5%となっています。ハイビジョン映像の編集・オーサリング、デジタル映画・3D映画の編集・オーサリングのリーディングカンパニーです。

\*\*\*\*\*  
メモリーテックについて:

1985年9月に設立。現在、ポニーキャニオン、エイベックス、三菱商事、東芝等を主要株主とし、映像DVD、音楽CD生産における国内マーケットシェアは約30%と、光ディスク分野において独立系最大手企業です。メモリーテックグループの事業領域は、コンテンツ関連分野における制作・制作、CG制作・合成、編集・エンコーディング・オーサリングサービス、4工場でのCD・DVDの量産、パッケージデザイン・印刷、レンタル加工・物流受託サービス、コールセンター・エンドユーザマーケティング事業等であり、エンターテインメントに関わる一連の事業を展開しています。また、海外においては、上海聯合光盤有限公司による中国でのCD・DVDの量産事業を展開。今後東南アジアでの事業展開を予定しています。

本資料に関するお問合せ先:  
株式会社キュー・テック

メール: info@qtec.ne.jp  
TEL: 03-3589-2344